KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

東海文圖略 上

ル 3
3681

門ん3
號3681
卷

人國記卷之下編目

山陰道八國

丹波一　丹後三　但馬四　因幡五
伯耆六　出雲七　石見八　隱岐九

山陽道八國

播磨十　美作十一　備前十二　備中十三
備後十五　安藝十六　周防十七　長門十八

南海道六國

紀伊十九　淡路二十　阿波廿一　讃岐廿二

57343

伊豫 廿四　土佐 廿七
西海道九國 并二島
筑前 廿九　筑後 卅　豊前 卅一　豊後 卅三
肥前 卅五　肥後 卅八　日向 四十　大隅 四十二
薩摩 四十四　壹岐 四十七　對馬 四十七

人國記巻之下

山陰道八國

丹波

當國の風俗ハ人の氣懦弱ふして。面々各こふして己を自恃し。人の非を譏。人の是あるを憎ひ。ひとへに小婦人の心根なり。百姓ハ農業を專とせずして高爵を相かゝて。分の冨有を求。却て勇気ずくなくして。端たらく。昨日の味方も今日ハ敵となりとて。世をうらむ者一の凡義なり。

按に。南国ハ。日方山こゆて。皆谷多の人家なり。寒雪も。北国ほどハなきれとも。烈し。山谷の間の民まれハ。偏屈にて。そこなわるへきなれとも。おのゝ説ゝ。懦弱なる所以ハ。国境に隣て。和に近う。加上邦の風俗を。見に馴て。自氣の情出て。木強の質を失つ。婦人の風俗一入取しめ。なくして。時ある所なり。

丹波國圖

丹後

當國の風俗ハ。上下男女ともに。百人の内に。一人も好人なり。不直ふして。氣強。却て勇ましまハ寡し。適勇あれハ邪智多し。若又實ある者ハ。愚昧なり。用ふ不堪とて。

按に。當ふハ北海をうけて。南に山を負て入海多して。冬の温和ふ別れり。心寒きまあれとも。北陸

丹後國圖

但馬

當國の風俗ハ。丹列うハおゝし。岩氣多越海二方の敎那ハ。實ありて。たのもしき。氣沈る。朝来養父の風ハ。氣荒きてきわく。豆人おゝし。兩丹の風の中ゑ。して。若しも惡にも從うとそ。

按ふ。高ゑハ土地の大廣丹後ふひとし。但丹後も野鄙なる。四境宝暑も。丹後ふ同し。國府ハ濃風あり。

但馬國圖

但馬
丹後
因幡
播磨
摂津
生野
黒野
村岡
出石
城崎
湯村
八木
松本
養父
朝来
竹田
福井
高田
八木
新井
藤村
出石
城崎
湯村
村岡
黒野

因幡

當國の風俗。八上智頭邑美の三郡八。實ふかくして而を勇ありて紡を不変。高草氣多法味巨濃の数郡八。侵ふかくして。邪智あり。武士八利欲ふ拘。得の氏く方に従ひ。ふるまひ。一國の風。めぐり風俗の変。誠に天性自然の理なりとぞ。

按に。蒙古北海をうるといへども。南に山陰。並のふるもの。たちこもりたるふり。寒さまさるふり。民俗海濱と山岳とに分れのふるもの。変異あるなり

因幡國圖

伯耆

當國の風俗すべて虛實相半ば。貴人に交て。[illegible]を敬て。若心生ずべしといへども其人を離てハ又惡心を發じやすし。惡友遠國の地に居て。定り心得ふかし。されハ今世下賤の輩ふ物の挑りて進ども急やすきを。三百傳といふるゆ代国の風ようゆゑと云。然てふ動勢ても怠ハ勇ふ生ずる氣とそ。

按ずの當国の風土も國列に似れども。性質廣多し。民俗の書にくわし。

伯耆國圖

出雲

當國の風俗ハ万度の作業實義ふ勤て夫を乾一とすれ凡なれとも。明國の論義沐ふして。其理を不辨。吾邪正ともに佛神に祈て加護をたのゝとする凡もつて謀計ハ罰ふ尚。置ハ情を蒙。神ハ祀れを受ず。巨の前にやとるゝ。巨時の心ちとて悔よ。南宝山負海と抱て寒凡ける。

石見

當國の風俗ハ丹後の国に不異して。俗質にして。實ある人稀なり。質朴なる風俗なり。勢有る者ハ只悪心を巧む。言葉巧の如くにして。

按に當国ハ西北の海に向て。山ことに高く。たゞ国なるに。こゝかも迫し。民俗おのゝ山谷の業にて。淳朴の風あり。又銀山の風移りて。漸巧の風あり。

隱岐

當國の風俗ハ柔弱ふしにて教道なし。知夫一郡のみ實義ふしにて。たのみ有所あり。其餘ハ風にさからふ草のごとく。若邪に不拘ものをば。ふかく。をそれとも。石別よりハ。なをよろしく上の風とぞ。

扨に。いと雲州をさすや。三十六里。北海中の島也。

寒雪ハ甚しし

隠岐國圖

山陽道八國

播磨

當國の風俗ハ。智恵あるて義理を不忘。親ハ子を誡し。子ハ親を敬。主ハ被友ハ外地をゆくに。てぬ人をゆるし。親とうろぐ。被友なし。亦忠勤を二心なくして。諸侯を。不忘をゆるすを。ゆゑ。偏小盗賊の振と。侍ハ中〻ゆゑ。見れ義ゆゑ。

枚ゑ。当國ハ南ハ海。山と。夏ハ。とくの風土。寒暑温和して。万の富有のゆゑ。民

俗な書に西流の人ゝ風土の必氣をうくるといへとも。憂患に生て。安逸に死の理ふて。其心ふ神妙するのあき故也。寒ふ古春の武士にも。赤松堂が如きゝ皆利心より出てかゝの所謂不女是也と云者なるへし。

播磨國圖

美作

當國の風俗ハ。卑劣ありて。欲心深し。譬ハ。人の物を借て。夫を石返を却てする物ふるやうのたぐひ。片意地ありて。人の教訓を少へず。邪意に任て。過を文されども。こゝ中にも。化しやすきかたぎもあるハたのもし。石列ハかきれりとそ。

南面ハ。山陰山陽の分こゝ中ゆきて。山ふかうと。寒さこゝろ〳〵かゝ〳〵。

備前

當國の風俗ハ上下ともに利根を先として方すをとなくよ侯て言ひのわ義するすおはし別て偏心ひとくして上べハよのぬすふ淫ひて内心ハ已うさ強くにさげすて誇ものを。主人ハ威を張てトをなさんとし。被官ハ主を欺内ハ皆私心ふて礼をもてを衛風なをを。きれとも都て勢義ある生業上を飾ら風なるをハ。五十年も濁ら人。まことに義こ義をもて風義真ものをうとそ。

按に當國八山入深くして海濱を抱たるゆえ寒暑も中和といふ時節なり

備前國圖

備中

當國の風俗ハ。都て高地にして。上下男女ともに勇敢ありて。義理を励まず。高ぶりて。ものさびしき心ゆへに。互に理をふ尚ぶ。但備前備後の辺に。不ふにてしるしの風あり。

按當國及備後とも。備前と一帯にして。古ハ吉備國と云へとも。備前ハ山に遠に深く。玄蕃国あるなり。

備中國圖

備後

當國の風俗ハ。生業質素ふして。物を愛ずるの家。されども愚癡なるもの多く。質素なるものを弁ぜざるなり。

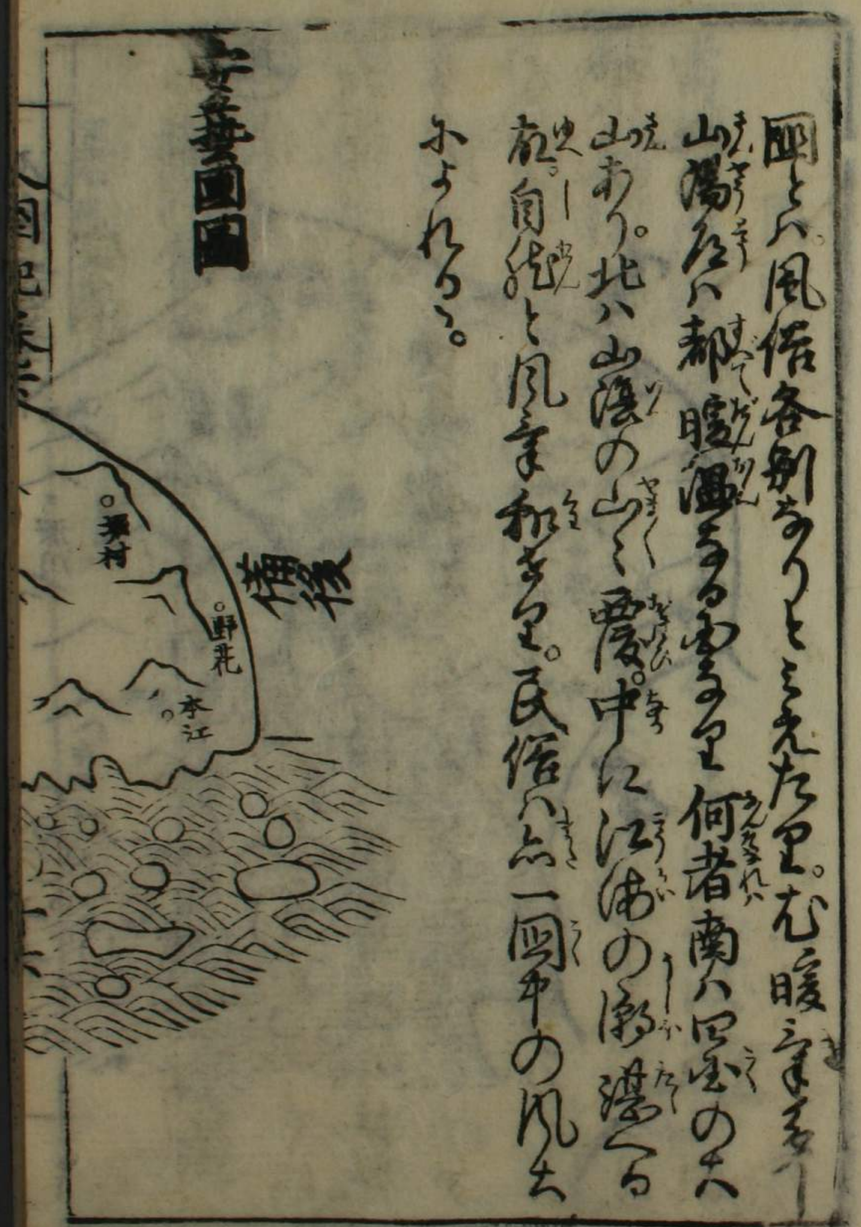
柳に。當國ハ三面の海をあて。一の大海を。迎ゑれども。山々海くゝして。海産の乾ふ多し。

是ハ海濱ハ瞑氣多く。山中ハ寒多き。

安芸

當國の風俗ハ生質実なる事とも。氣自然と猛しく。諸人ひろくて。人と生だて。人の若恥ともに。判ぶるものあく。己くゞ一命をもつる風なり。偖こゝ極羅なる人かし。世界の潮を恐るゝ事。ゆゝしげかきれなれども。奢ハ実素なり。勢れハ奢不なり。殘ゝ佞佞沼田賀茂の人健ゆゝて。二心表裏の風なり。

按ふ。当国ハ尤海辺なれとも。三方山かこ。南も峰山多て。表ま自ゝ守れる國なる。是故に。国の



國と。風俗各別なりとゝえたる。尤暖なる山陽ハ都暖湿なる事。何者南ハ国の大山あり。北ハ山陰の山々。農中に江海の湾なる故。自然と風ま和なる。民俗ハ六一国平の風ふ

周防

當國の風俗ハ健義なる。されども詐數佐波郡諸こ郡ハ義理寡。昧日まて肩を並べし者ゆへも仕合とを れハ君と沖凡なる。大洲敢河越毛こ郡の人ハ西郡 ようハおハまされるとされども情落の方小付たる凡こ。 婦人布ゆして。要すを示ハかし。徒も恐て氣小有。殘 思なるすなりとて

按に當國ハ海辺多く。丘山と負ども深うして。寒 暑勢にひとし。

周防國圖

長門

當國の風俗ハ方ゝ英掛たるゆゑ人の言葉も下青こ上調ゝまるゆゑ。人ハ疎ずるにも。一思案して。義の風あり。更ゝ人たのもゝしくして。堂々豊たるとゝを勇といへども。進ゆ疾けれども。至まゝ怠惰のきゝ多ゆ。固義武士の風俗。義と云難しゝそ。

按に。當国ハ北西の海を受たる国ゆゑ。むゝ南ハ海濱あるゆゑ。角ハ陽氣を乏たる国ゆゑ。依く寒風烈ゝく。雪も亦山陰に切し

長門國圖

南海道六國

紀伊

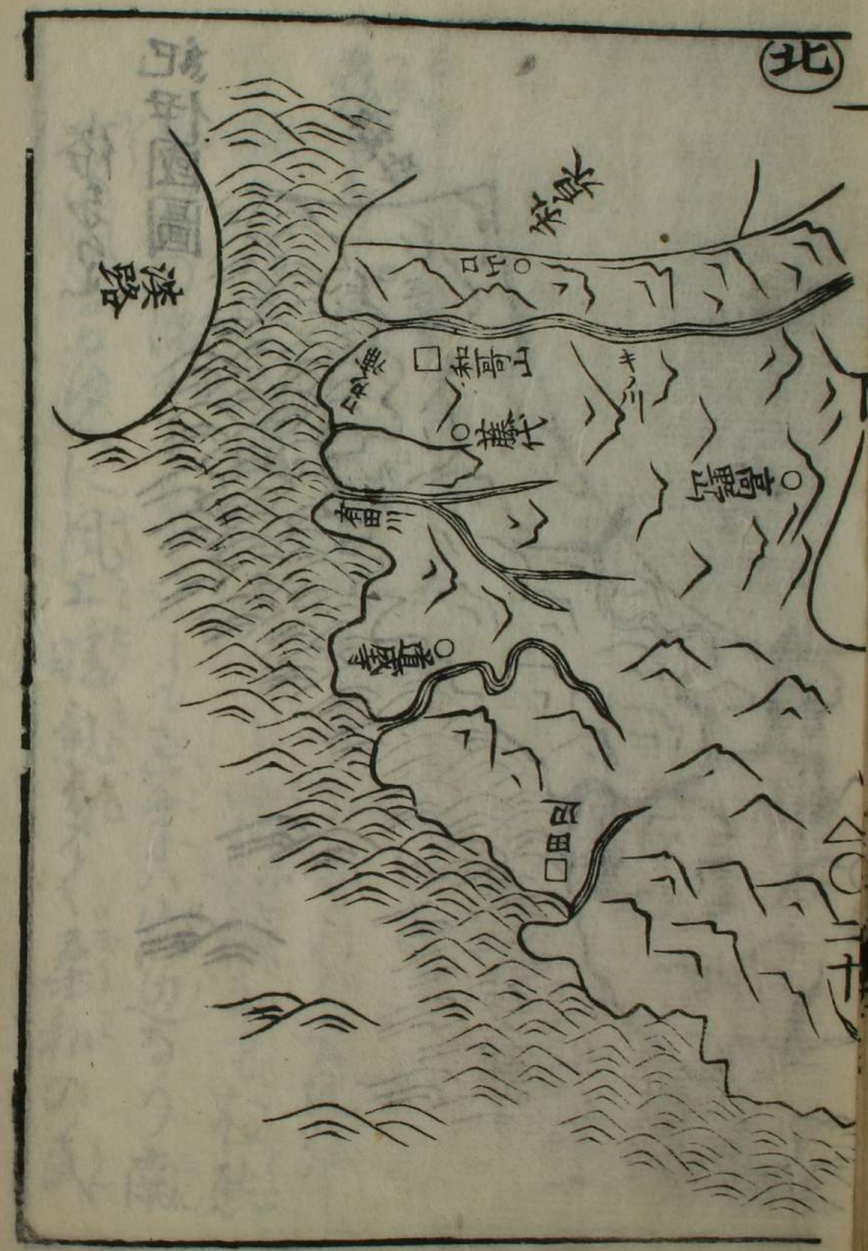
當國の風俗ハ不健義弗一ホして陽氣甚賤く上ハ下を貪り下ハ上を侮り。法令を不用。就中牟婁日高在田郡ハ我慢なり。言ハ強ると思へハ。又弱して。詐り和の奥意不極。譬ハ昨日敵と爲し人なり。今日ハ從ひ。又先に異変あれハ。己一分之の一揆を企の類あり。此故ゆや。鄉〻に名主庄司と爲して。一命に自恣を恣にす。治業の礼の時ならすを

吹伝ふ。後こは風ふの南れる。伊那名草那賀海部郡の人ハ。南郡より。氣象なる。然とも指掛たる。高地のこゝて。是も諸りたる心座聊もあり。又恵を。ふることなまふ陸奥どの高ハなきれども。欲の深きと。日本と叔母あるまゝ。只利口を面前ふ弱し。実義。毒もあり。西伊両丹石別丈ヶ恵ふ比もれハ三見地強。

桜に貴恵ハ大国ふ。てゝ。迫海濱なる。む然。郡等の深山もまゝとゝ。ともるまゝハ海辺なり。南方の国なるゆへに。風土暖氣多く。柔和の民

俗なり。

紀伊國圖



淡路

當國の風俗ハ。遠島の國ゆへ。人の氣健かして。
侈奢も偽あり。磯言ハ。親類縁者とゆへて其節
めを正し。貧窮貧困の者ゆへも。尋常の風
なるされとも。都て怠惰がちにて。たまりおく。
退屈のこゝあり。民士も。実義ハあれども。達人の
ゐ出ハ。すくなしとそ。

按に。南海ハ紀伊の波の海中の島なり。
四辺皆海ゆへ。山あり。憶男ゆ廣国なり。

南方ゆゑに暖かにして。民俗柔弱なり。
て。事多くとれども。孤島なる故。実義ありとこ
えたり。

淡路國圖

阿波

當國の風俗は大底氣健ぶして。勢あり。されども。
知あるゆゑ。義道に行ふ者多くあるべし。人をたぶらか
し。強盗をする輩のことあるまじ。むさ苦強し。
勝浦那賀板野阿波麻殖郡は。あし心細強とて。
按に。南海海濱東ふ向賀山原し。南海故實
暖氣なり。東方の秀氣を受る故ふ。氣健
ふ知あるべし。

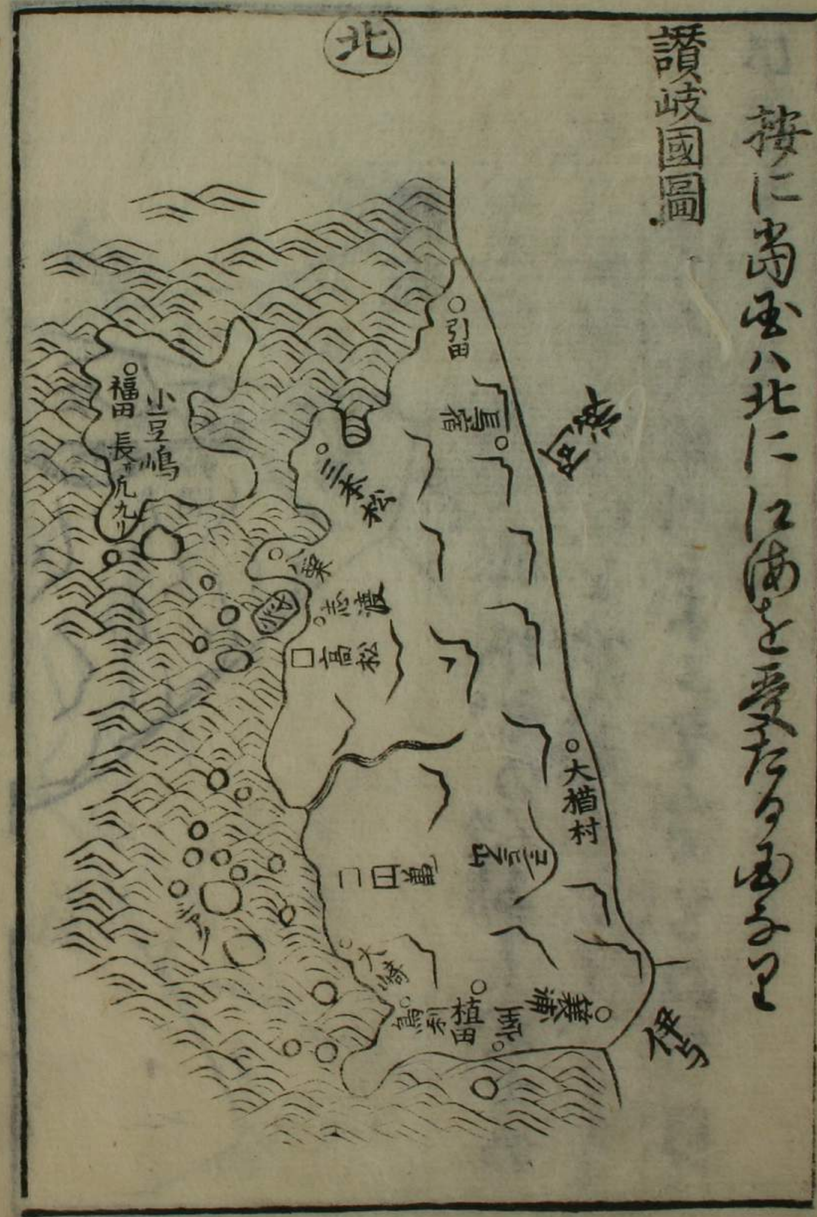
阿波國圖

讃岐

国風の風俗ハ氣質弱。邪智の人多し。武士の風別て猛強く。方便を以て立引をすべきすべと思ふなり。大内寒川三本三豊山田多数郡。別て

接に南国ハ北に江南を要たるゆゑ

讃岐國圖

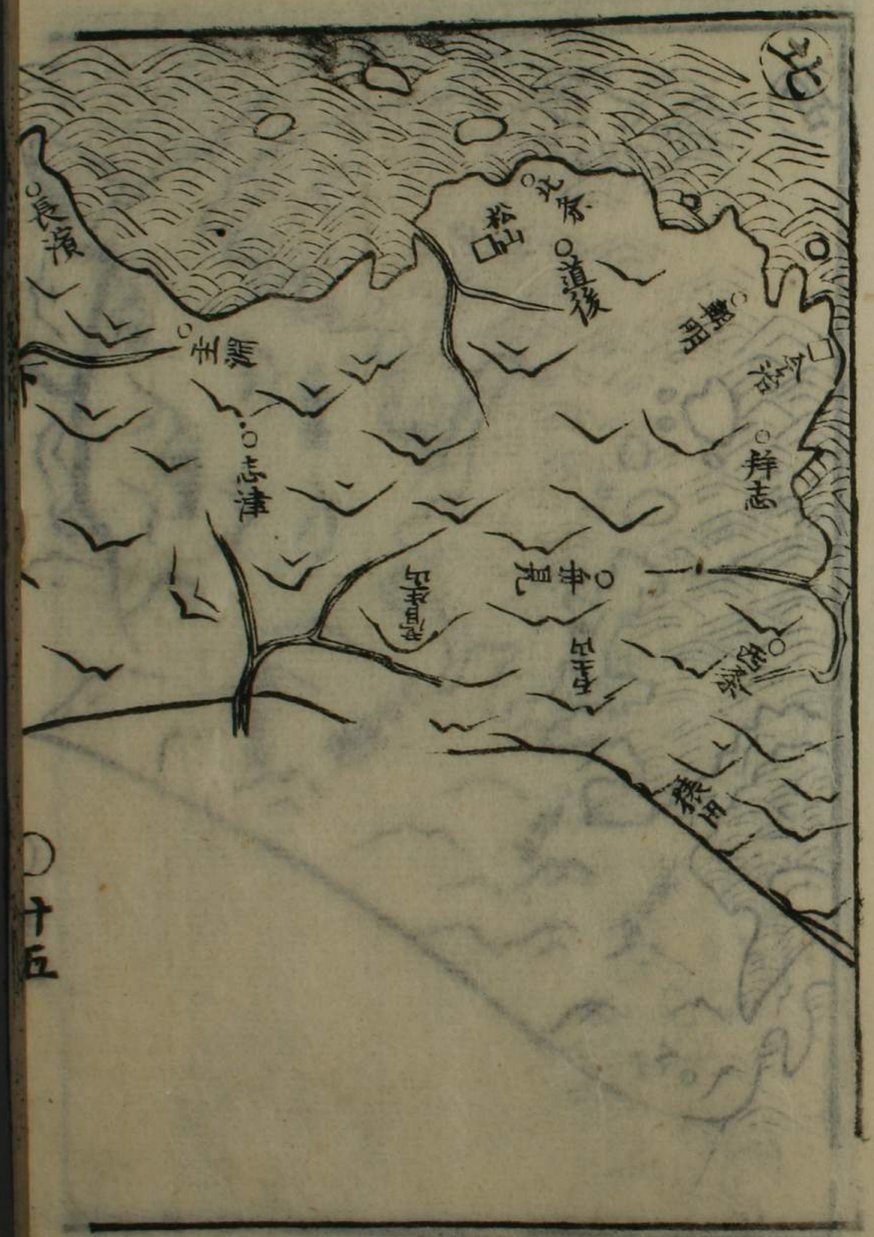


伊豫

當國の風俗ハ大形半分こゝに別れ。東七八郡ハ氣質柔和にして。実義強く。西郡ハ。都て氣強く。郡ごとに実ハあくどゆゑなり。古へよりしたふハ海賊滿て往來の舟をあやまたのよし。ゆゑ及ふよ不善。今をなを往堂を立て。一引を立ふ盜ぶ。ふの海賊同し葉うして。武士の風俗一所てゞうといへども。甚だ体あさ方花多ゆ多さ風なるゆゑ。紅の世とても。ゆ風変ずるきとそ

按に。當国大國にして。むかしより多く。好に風俗も所々にかはるなり。むかしの遺風の也。

伊豫國圖



西
大洲
八幡濱
松葉
吉田
宇和島
秦泊
宇和津
宇和

福浦

土佐

當國の風俗ハ。極て真あり て。氣質すなをなる。土佐長岡吾川の郡。別て此風あり と。言伝へ。風の移るとのゆへ。其語言早俚あり とて。佐つけ よきこと也。但さとゆへ。其語言早俚あり とて。

按に。南海ハ大海 にして。石墨の演はゞきあり と。山まゝ多し。北南海を受ひたる国 なり。故温暖 なり。

福良
鳴門

福原
竹原
淡路
田方
鳴門

西海道九國 附二嶋

筑前

當國の風俗ハ。大度飾多くして。人々各々の心かまに。勇も一度ハ勇れとも。かゞるれゆへ絶ふ何すも成就せず。但九州にめぐり。紀奢の國なまに。酒色数好人ぶり。親族の居ることなく。我たゆまに。ぶれ人ふちるゝ者さぶれて。墓五て死とて。

桜に。南蛮ハ一度を去て。山も赤多。風土温和にして。暖き多。古昔ハ。太宰府とて。

九州の大領府にして。是を西都ともいひし。筑中博多の津は。異國の船津なりし。外の湊より。此所に來たるべし。人の生活をはたらくなりて。物ごとさやうなる者多し。むかしをうたてきれともえさう

筑前國圖

筑後

當國の風俗ハ。龍崎あるよりかろ。実義あるに。常に義理を漢ぶる。失をおぢ。費を惜で。言語ふ飾する。鄙美俗とも。下人ハ一概にして。理非を弁かもの。すくなく。是非の。なすのこと。譬ハ甚堅固かなる。鄙語とも。それハ強よい。非して。石のこと。難燥るなり。てゝ。けもて二義合すなりとし。上なる者。は風よりかゝ和ありと考へしとそ。

按に。南玉龍崎お溝といとも。八海とうけて大

ゝ山園なる事。故風義も別ちりと見えたり。也温暖のあるに。

筑後國圖

豊前

當國の風俗ハ。驊ハ。馬の如し。馬に名ある也。曲馬あり。色この毛ふあり。長ちく。物よりうるくしく。色ふ結るのごとし。然ども。曲ある時ハ。開かゝ。然ふ。るに比れば曲るのごとし。曲るに。走あり。止あり。唯ふ踏あり。其曲ある。中氣ちるるとされハ。此國の風俗ハ。唯常氣の馬のごとくして。其實ふたるを。高地ある。死生を論ずる場ふ。ありても。右表を不忘るあるゝねど。理を捨て。命を惜むのごとくふ。

おほ。されハ。一風の命を捨るとハ。われ。此理ふ。心を動ん人多きハ。ふ。風俗とす。

按に。當國ハ長門向に當り。世ハ流芳の名に。あるとて。國号をとるに。後に。一曲ある形の國。温暖の國。民風ふ義にふ。死して。一命の命よ。捨やすきとの義。此國にうきるへうさる。きれとも。此國古の人。義戰をとる。右死を。せ。う。右見ることとさハ。後に古書の説の。風ふるゝや。

豊前國圖

豊後

當國の風俗ハ。氣を稟て偏塞なる。弱を用ひ十ヶ一も苦に生ずるハ。偏屋の内より出生ゆへに。性國なるゆゑ。性なり。物取聖法たるの。子をまびくと宣しへ。出家せざれば。子孫斷絶するゆゑを。代出の人ハ。代絶を不幸しへ。出生するゆゑと。殺害すると。心ハ代つ。今も代風みなくなれども。未世にてもなほ代ゆ。ゆゑ。代なるの氣質ゆゑ。甚死を不厭ゆ。我もの如し。別て武士の風俗ハ。偏代偏を無代ゆゑ。

とためんと魚つり人あつて。函遠ふ到らず不結して。
或ハ邪気ふ遠ひ。猛病をすくはんとすべし。毋ハ理国
かさごうをけまとハ。ものうとそ。
按ふ。尚ふ海濱も多。山谷も多き大国なれ。
瞰氣の法なきも。只邪ちどすべ。山中ハ多き。
民俗ふ書に説ところ詳なり。中比大友の奥羅
とゝるに。大槩ふ出に不遠。此義毋。梅子と
まびくとふこと。ハ尚ふ出に限ること。如列の内不く
ひ風あるべうなり。ふ出に聖徳太子のこと

まびくと宣ひしう。倫の書に見ぞ。縱ふ出
せさ弾て。人ふとまびくとこと。是天ふ自
然の人倫を滅却するにあらずや。まして。
産しまの子母。こゝろ慈愛と殺害する夷
狄禽獸ふひとしうしぶや。慈仁の恵風。遠
及び。ひ風。義沢もとふ。志あり人ハ恐れ
惧て。四倫の生涯にかゝるすと恢むへし

豊後國圖

西
海部郡
佐賀郡
大分郡
玖珠郡
日田郡
竹田
臼杵
佐伯
大分
高崎山
鶴崎
姫島
宇佐
中津
日向

日向
宮崎郡
臼杵郡
直川郡
大野郡
竹田
岩松
草深
町田
呼崎
上松市
江陵
中村
森崎
浦内
日向

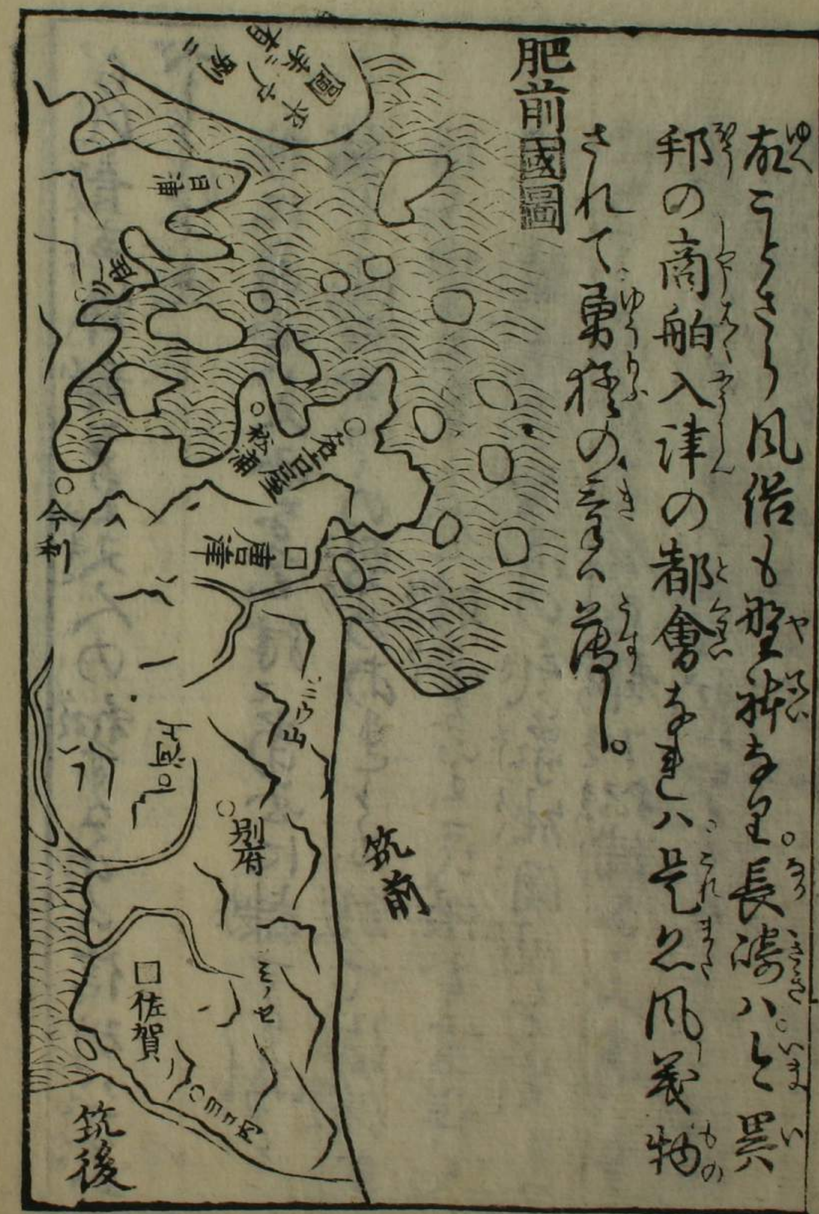
肥前

當國の風俗ハ山陰を合たるやうにして。武勇に至てハ義を知て。ひるむ色なし。海岸國の風土を生ずると云なり。百人が一人ハ風なきハ。ことのかめつゝをやうなり。武士の風格ハ只温和の志を主とする也。上を敬ひ下をめぐむ。是の為に命を投ずるを貴とす。百姓町人男女ともに不通罷科みて。孔に至といへども。毛ほ奈とも。むこ家ハ信州に同し。

ら。音声野鄙。鄙事。又人の和するをハ。信州ハ及べからざるなり。

按に南西ハ火なり。故に當國に隷する諸島。風土かゝの習あるも。故て海濱おほく。山も又多し。光暗ふかき。民俗本書詳し。中古龍造寺隆信の氣象。能國風を生ずるなり。有馬郡ハ松浦なとハ遠く生ざかりたるゆへ。風もハかりうめえべし。松浦郡の内ハ属生。五島。浦上。平戸。陽

肥前國圖



おろそかなる風俗も聖教なる。長崎ハとゝ異邦の商舶入津の都會なるゆへ、其さまされて勇猛の気風あり。

西
下府

五嶋

肥後

當國の風俗。大神肥前に似たりとされども。甚勇を敷らふ。百分の一なるべし。武士の風俗。肥前ふ劣て。柔なるに。然ともまた意地の強なる。毒を含たるやうなるとこそ。一ツ別多く。ひくくなるゆへ。一和せず。肥前にいたるう劣れるとこそ。

按に。筑紫も大国なるに。海濱多く。山中少し。西蘇求麻なとに。各別の国のやうなるに。暗温のふなり。民俗おし素に詳なるに。上下共に木の

ふるこしてに人心素なるに。偽て。嬉を聚め入聲なるを。者に。庭を列をも恥とせり。

肥後國圖

西
肥前嶋原
天草
薩摩
肥後
筑後

西
薩摩
大隅
日向
肥後
筑後
小倉
田浦
伏見
三池
熊庄
豊田
片下
言地
大村
求麻口
小島
湯山

日向

當國の風俗ハ。玄神玄法の変のこゝ。たゞ〳〵。兵亂の夷
なるふ任て。己り理とする時ハ。非とする人ありとなす。惑て
用ひず。ハ。其理ハ姫八寺二方二して。其淡る人とハ。偽ふ
及ひ。終よ。討果すの類する凡そ。まこと。誠に偏甲のわさ
ものさすの人偽の道理を不忘きと。欺くへき不なると。
咤聖すなをいて。善とする。其凡。倍怒るべし。

按に。當国の凡そ。海濱。岩〳〵。又山中。深き大木
なり。故暖氣なり。

日向國圖

大隅

當國の風俗ハ。是も死を以て表とす。另なる者ハ。死する道とおぼえ。元五常ハ一區ものとおぼへ。佛法ハ死後のはなしとして。生死の爲ふ至極と自足して。常ふ主下の化法もみてなく。主と云者のことを。祿を受るを主と云べ百姓ハ地ひとのを云て。不祀の行法聲て云に不足なり。戰場ふ於て。死するも。忠義の節義のとゝ云ふ史なく。戰ふ時ハ死を出すことのゝ云ゆ。泰平の時ハ。人危殆するに。從者勝ゝ

或ハ是をのぐ。高屋新後する新のゆ。ほこおほ。
ま代とそ。ひ風ちゐくゝとそ。
按に。常陸山を陸奥て。沖中へさゝおたゐ玉なを。
種子島屋久の島ちと云。南海の大島ひ中に屬す。
む勝玉ゐ。民俗本書に詳ゐ

大隅國圖

自大隅佐多嶋指種子海上十八里巽
指屋久海上三十里南

薩摩

當國の風俗。大隅ふかもとをなしとそ。
按に。當國ハ大隅の如ふ江南を陽て。北ハ海山を負。西海を受たる国なりて。薩州長良湾ハ湾ふとゝ國ハ古ゝ侯哉。尚古の隷なる。琉球も南ハ
附庸ハ四時の常暖なり。民俗本書にいるこゝく剛強なる生性今の世にいたりまて強ち。
常に床の上に病死するを憾として。殺伐の場に死を忘るを能はて。女子孫もこれを

榮者とせるを。他人の兒子の戲語ふるものの
芳を恥辱とし。甚父これを死をすむる事の
おほ〳〵とそ。況よ死を恐れさるハ勇猛なれども。
理非を勘弁きさ分と迷惑ふ〳〵ずや。況その
風俗。尤かゝ形ありめたへし。

薩摩國圖

西
永良嶋
自川湊廿二里
竹
四十五

九嶋
自口永良三十里

西

北

壹岐

當國の風俗ハ。遠島なれとも。物の美奢なるもの。大隅薩摩ひらぐ〜海さきなる。人の氣象弱なる所おほし。実

壹岐嶋圖

對馬

當國の風俗。壹岐と同風なりとぞ。
按に。壹岐對馬は西海道なれども。肥前の国の北に當り
たる海中の島なり。関西地方にあり。伊豆山は。壹岐
八肥州名古屋なる。十三里。對馬は壹岐の勝本浦より
里。四十八里。乾の方なり。皆北よりの風波に寒あり。
對馬八郡と。寒国雪和尽。是より朝鮮へ通路海
航又四十八里なり。

對馬嶋圖

人國記卷之下 終

發行

江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　浅草寺町二丁目　須原屋伊八
同　日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同　両國横山町三丁目　和泉屋金右衛門
同　芝神明前　岡田屋嘉七
京都三條通升屋町　出雲寺文治郎
肥前佐賀白山町　紙屋惣右衛門
大坂南久寶寺町　榎並屋小兵衛
同　心齋橋備後町　近江屋平助
同　心齋橋通南久寶寺町　伊丹屋善兵衛

書林